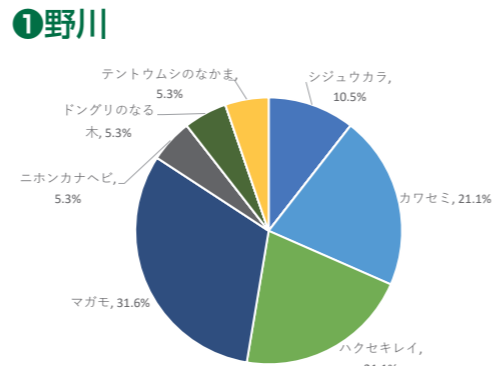
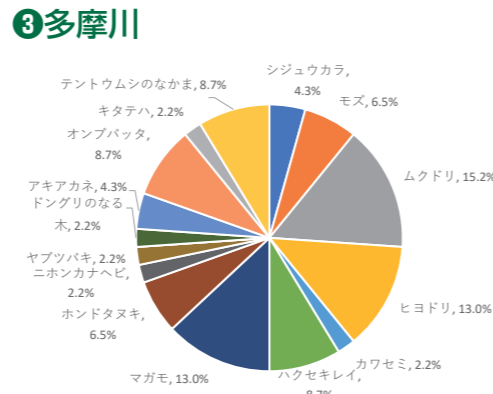


# 調査別場所のランキング

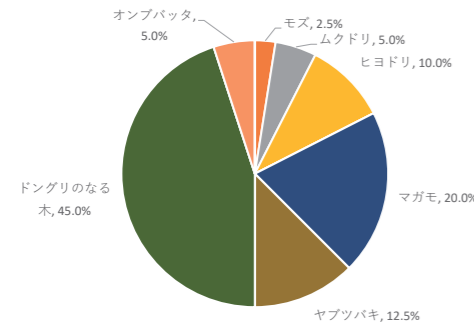
各調査地点の調査対象の生きものの報告数は、西河原公園が一番多く 86 件の報告がありました。西河原公園では、植物の報告が一番多く 42 件ありました。次いで前原公園で 61 件の報告がありました。岩戸川緑地公園と東野川三丁目樹林地は調査対象の生きものの報告がありませんでした。



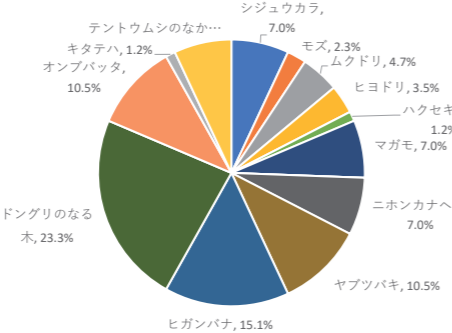
②岩戸川緑地公園：報告なし



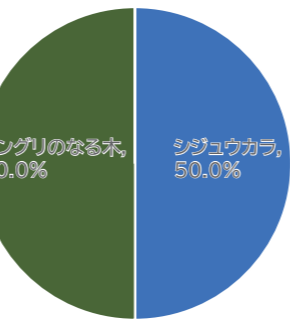
④ 狛江弁財天池 特別緑地保全地区



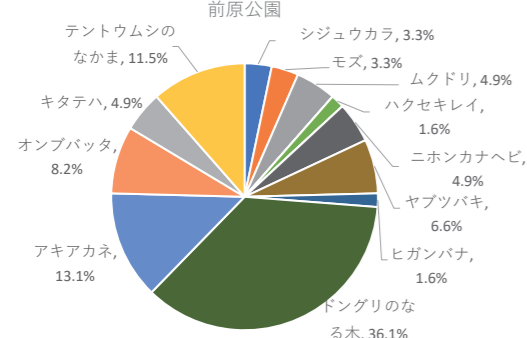
⑤ 西河原公園



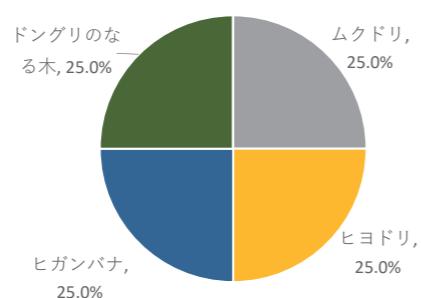
⑥ 中和泉樹林地



⑦ 前原公園

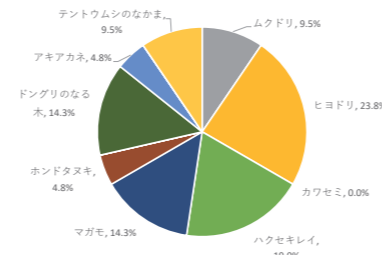


⑧ 野川緑地公園・西野川樹林地



⑨ 東野川三丁目樹林地：報告なし

その他



# こまえ 生きもの探検隊



調査結果のご報告

## 「こまえ生きもの探検隊」とは？

市民の力で市内に暮らす身近な生きものを調査するプロジェクトです。狛江の生きものに対して広く市民に関心を持ってもらうことと、市内の自然環境の継続的な把握のために実施しています。また、市の生物多様性※の保全にも、役立ちます。

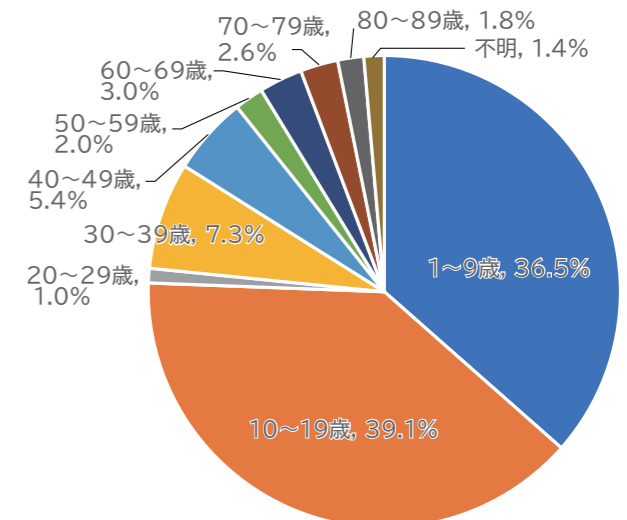
調査期間：令和3年9月1日～令和4年1月15日

報告数件：189件  
参加人数：689人

## 調査対象の生きもの

- 鳥類：シジュウカラ モズ ムクドリ ヒヨドリ カワセミ ハクセキレイ マガモ
- ほにゅう類：ホンダタヌキ ●はちゅう類：ニホンカナヘビ
- 植物 ヤブツバキ ヒガンバナ ドングリのなる木
- 昆虫類 アキアカネ オンプバッタ キタテハ テントウムシのなかま

## 調査対象別の報告数ランキング



4位：はちゅう類 13件、5位：ほ乳類 1件  
※報告件数と合わないのは、1件で複数種の報告があるためです。

## コラム

### 生物多様性とは？

いろいろな生き物がいたり、生きものが暮らす自然がたくさんあり、これらの生きものの命のつながりを生物多様性といいます。

#### 生態系の多様性

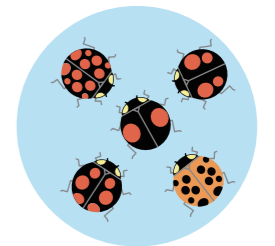
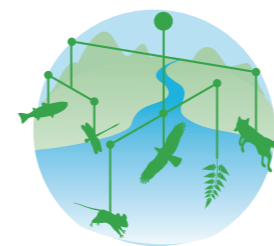
水辺や草原、里山など、いろんな場所で生きものが暮らしています。

#### 種の多様性

生きものの種類は、175万種類もいるといわれています。

#### 遺伝子の多様性

同じ生き物でも大きさや色、模様などたくさんの個性があります。



# 調査からわかったこと

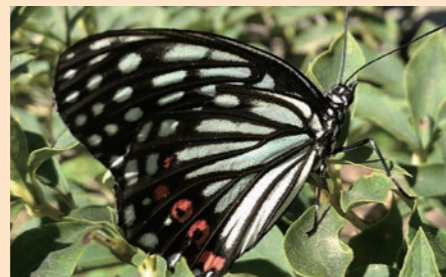
## 珍しい生きものについて

レアな情報として、ほ乳類のホンダタヌキの報告が 10/1～10/15 に 1 件、11/1～11/15 に 1 件、11/16～11/30 に 1 件、12/16～12/31 に 1 件の計 4 件の報告がありました。確認された場所は、多摩川で 3 件、その他で 1 件です。ホンダタヌキが暮らす多摩川などは、市内の貴重な自然環境といえます。



## 外来種について

外来種は、今回の生きもの探検隊の調査対象にはなっていませんでしたが、参加者からアカボシゴマダラの写真が寄せられました。中国大陸原産のチョウであるアカボシゴマダラは、特定外来生物に指定されているため、捕まえて育てたり、他の場所へ移動させることは禁じられています。



# 参加者の方からの写真

参加者の方からご報告いただいた写真の一部を紹介するよ！



## 昆虫類



**アカボシゴマダラ**  
前翅長 40～53mm。翅は黒地に白の斑紋があり、春型は全体に白っぽく見える。狛江市内で見られるものは、中国大陸原産の移入亜種であり、「特定外来生物」に指定されているため、生体の移動や飼育はできない。



**セイヨウミツバチ**  
ヨーロッパやアフリカ原産の外来種。蜂蜜を採るために世界各地で飼育されている。腹部に琥珀色または黄色味の帯びた部分がある点などで、在来のニホンミツバチと区別できる。



**オオカマキリ**  
体長は、雌 75～95mm、雄 68～90mm。体は、淡褐色又は緑色。後翅の付け根を中心とした大部分が暗紫褐色。川原や林縁の草地に生息する。他の昆虫類を餌にする。

## 鳥類



**カワセミ**  
全長 17cm 程度の小型の水鳥。頭、頬、背中は青く、胸と腹と眼の前後は橙色で、足は赤い。水辺に生息する留鳥で、魚類やザリガニ等を餌にする。狛江市内では、主に野川流域や多摩川の河川敷でみられる。



**エナガ**  
全長 14cm 程度の留鳥。尾羽は 7～8cm と極端に長く、これを柄の長い柄杓に例えたことが名前の由来。嘴は、黒くて小さく、首が短く体が丸い。眉斑は、太く黒い。主に平地から山地にかけての林に生息する。

## 植物



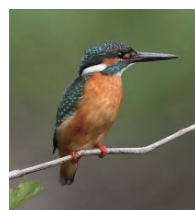
**ヒガンバナ**  
マンジュシャゲとも呼ばれる中国原産の史前帰化植物。高さ 30～50cm。多年生草本で、葉は晩秋に伸出し、翌春には枯れる。人里に生育し、田畑の周辺や堤防、墓地等に多く見られる。花期は 9 月。

## コラム

狛江市環境基本計画では、水辺の生きもの 11 種とまちなかの生きもの 9 種を指標種として選びました。それらの生きものが継続的に確認されることをめざしています。

■水辺の指標種：チョウゲンボウ、ホンダイタチ、カワセミ、ヒバリ、オオヨシキリ、ツバメ、ニホンアマガエル、カラバタ、ドジョウ、アカトンボの仲間、ハグロトンボ

■緑の多いまちなかの指標種：ツミ、ホンダタヌキ、アブラコウモリ、モズ、ツバメ、ヒガシニホトカゲ、ニホンミツバチ、ナナフシモドキ、ヒグラシ



カワセミ



ツバメ



ホンダタヌキ



ヒグラシ

## その他



**コナラ**  
高さ 15 m に達する高木の落葉広葉樹で、市内の雑木林を代表する樹木。花は 4 月にさき、秋にドングリをつける。また、樹液にはカブトムシやクワガタなどの昆虫が集まる。



**ニホンアカガエル**  
体長 3～7.5cm、体色が赤褐色のカエル。背中左右の黄色い筋が真っ直ぐ平行な点の特徴。草むらや森林、平地、丘陵地等の地上に生息し、産卵は水田や湿地で行う。昆虫等を餌としている。



**ニホンスッポン**  
背甲長 38.5cm。甲羅表面は、角質化していないため軟らかい。動物食の強い雑食で、主に魚類や両生類等を餌にする。市内では、主に野川や多摩川の河川敷でみられる。咬みつかれると、痛いので注意が必要。